

New Function

オーディオマルチタスクをはじめ普段の使い勝手を向上させる機能を搭載
さらにGセンサーやNFCを使った新しいペアリング機能
各種設定ができるスマホアプリなど、新世代の機能が自押ししの20Sだ



Function 3 クイックペアリング

20SはGセンサーを搭載しており、20S同士のペアリングであれば、2台の20Sをそれぞれ上下に振るだけでペアリングモードに入り、片方のジョグダイヤルをタップすればペアリングが完了する。またNFC（近距離無線通信）に対応しているため、最近増えているNFC対応スマートフォンであれば、20Sと接触させるだけでペアリングモードに入ることができる



Function 4 ボイスコマンド

従来のセナのモデルにも、電話着信時に大きな声を発すると電話に応答できるという機能があったが、20Sでは音声認識機能を強化し、インターコムの呼び出しや電話のスピードダイヤル、音楽、FMラジオの起動や選曲、選局といった動作を、音声（英語）で指示できる。ボタン操作の手順や回数といったことを覚えていなくても、感覚的に声で操作ができる

Function 5 専用アプリ

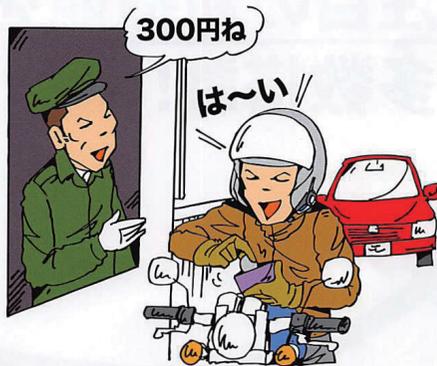


表示部がないインターコムの操作は、今どういう状態にあるのかが目で見えないために分かりにくい。そんな使い勝手を大幅に改善してくれるのが、スマホアプリ「SENA UTILITY」（日本語未対応）。スマホの画面を見ながらペアリング相手のグループ設定や、各種機能のオンオフ、FMラジオ周波数のメモリー管理、スピードダイヤルの電話番号登録といった操作がスマホの画面上で操作できる



Function 1 オーディオマルチタスク

従来のインターコムでは音楽再生中にインターコムの呼び出しに応えると、音楽は中断し通話モードとなるのが通例だった。しかし、この20Sはインターコム通話をしながらでも、バックグラウンドで音楽、FMラジオ、ナビの音声案内などが聞こえてくる新機能を搭載。バックグラウンドの音量は控えめに限り、通話が終了すると、自動的に通常の音量に戻る



Function 2 アンビエントモード

もともとヘルメットをかぶっていて外の音が聞こえづらくなっているうえに、インターコム通話や音楽などを再生しているとさらに外の様子が分かりにくい。20Sはライダーの声用マイクとは別に、環境音を録るマイクを装備。ボタンひとつですべての音声ソースを一時的に消して、もうひとつのマイクが録ったヘルメットの外の音がスピーカーから流れるようになっている

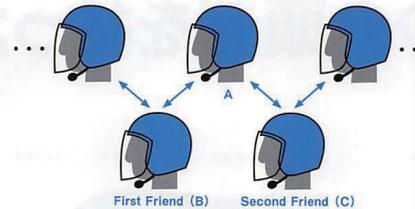
Basic Function

インターコムとしての基本機能が格段に向上した20S
ミュージックシェアリングやユニバーサルインターコムといった最新のインターコムのトレンドもしっかりキャッチアップしている



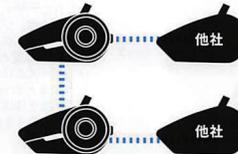
Function 4 通信人数最大8人

20Sは最大で8人の相手とペアリングして登録しておくことができる。この8人の中から個別に1対1で通話できる「2-Way通話」、2台のインターコムを接続して3人で通話できる「3-Way通話」が可能。さらにこの3-Way通話をチェーンのようにつなげることで最大8人で通話できる「マルチWay」通話機能も搭載。専用アプリを使って7人までのグループ設定も可能



もちろん、ユニバーサルペアリングも可能

既存モデルの最新ファームウェアの目玉機能である「ユニバーサルペアリング」を20Sは標準で搭載している。インターコム通話の相手として、セナのインターコムだけでなく他社のインターコムや市販のハンズフリーヘッドセットと接続できる機能で、グループ通話のメンバーの中にユニバーサルペアリングした他社製インターコムなどを接続することが可能だ



Function 5 プロファイルに優先順位

20Sが扱う音声ソースには優先順位が付いている。音楽再生、FMラジオ、インターコム通話、携帯電話通話という順に優先度が高くなり、それぞれの機能が起動すると、下位の機能の音声から切替わる。20Sで新たに搭載された周囲の音が聞こえる「アンビエントモード」はすべての音声ソースに対して優先されていて、同モードがオンになるとすべての音声がおフになる

- ↑ 優先高
- アンビエントモード
- 携帯電話通話 (HFP)
- ボイスコマンドモード (ダブルタップ)
- インターコム通話
- 有線オーディオ再生
- Bluetooth ミュージックシェア機能によるオーディオ再生 (A2DP)
- FMラジオ
- Bluetooth オーディオ再生 (A2DP)
- ↓ 優先低

Function 1 最大通信距離 2.0km

SMH10で約900mだった最大通信距離は、20S同士でインターコム通話をする場合に最大で約2.0kmと2倍以上に伸びた。仲間が遠く離れた時に力を発揮するのが、新たに装備された格納式のアンテナ。スプリングによって跳ね上がるため、電波状況が悪いと感じたら素早く展開できる。8人という最大同時通話人数と合わせ、20Sの利用シーンが広がるのは間違いない



Function 2 FMラジオ

セナのフラッグシップにして初めてFMラジオ機能を搭載。グローバルモデルとして76.0〜108.0MHzに対応しているので、日本ではFM放送周波数帯76.0〜90.0MHzに地域設定しよう。10の周波数をメモリーできるほか、このメモリーした周波数を残したまま、その場で受信できる周波数を一時的に10個メモリーできる。ツーリング先の放送局を探すのに便利だ



Function 5 ミュージックシェアリング

通常、ブルートゥース対応の音楽プレーヤーは、1台のヘッドセットにしか音楽を送信できない。そのためタンデムでは2人が別の音楽プレーヤーをそれぞれ接続し、別の音楽を聴かなければならなかった。20Sでは1台に接続したプレーヤーの音楽を、20S経由でもう1台のインターコムに送信することで、2人で1台の音楽プレーヤーの音楽を共有しながら走れる

